資料８

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略
基本目標・基本的方向についての検討資料

≪基本目標①≫

“チャレンジできるまち”に

⇒　恵まれた機会と養父市が持つ強みを生かし、弱みを強みに転じ、養父らしい「しごと」を創る

数値目標：就業者数５年間で〇〇人増加

【基本的方向】

〇中山間農業改革特区として“日本一農業をしやすいまち”の推進とあわせて、6次産業化を促進する。

〇廃校等を活用した企業誘致や市内商工業者による規模拡大、第２創業を促進するとともに、起業・創業しやすい環境づくりに取り組む。

〇豊かな自然や養父市オンリーワンの地域資源を活かした産業の振興を促進し、就業機会の拡大を図る。

〇雇用力が高いにもかかわらず、人材不足が課題となっている医療・福祉産業への就業を支援することにより地域課題の解決を図る。

〇国家戦略特区という強みを生かして農業分野以外の規制緩和による経済活動を促進する。

〇人材がいないことを逆手にとり、若くても活躍できる場があることを強調することにより、企業のマンパワー不足の解消や後継者がいない事業者の承継に繋げる。

≪基本目標②≫

“住みたいまち”に

⇒　“やぶぐらし”の魅力と地域で育んだ縁をフル活用し「ひと」の流れを創る

数値目標：市外からの転入者数５年間で〇〇人増加、市外への転出者数５年間で〇〇人減少

【基本的方向】

〇国家戦略特区によるイメージを背景に全国の移住希望者に対して、「やぶぐらし」の魅力を伝える取り組みを行う。

〇養父市で生まれ育った若者に対するアプローチを強化するとともに、幼少期から家族・地域が一体となって地域の魅力を体感させる等ふるさと意識を醸成し、Uターンを促進する。

〇市民総動員で養父市に縁がある人に対し、ふるさと回帰運動を展開する。
〇養父市で学んだ人材をご当地就職させるための取組みを促進する。
〇移住希望者と地域を繋ぐワンストップ相談窓口として、地域とマッチする移住者と受け入れ地域との調整機能を強化する。

≪基本目標③≫

“子育てしたいまち”に　⇒　安心して出産・子育てができる環境を創る

数値目標：出生数５年間で〇〇人

【基本的方向】

〇晩婚化、未婚化が進む中、結婚を望む若い男女が出会うことができる場（機会）をつくる。
〇子どもを産み育てたい夫婦の希望を叶えるとともに、子どもを安心して産み育てられる環境を整備する。
〇子育てと仕事の両立を支援する取組を行う。
〇「地域まるごと３世代」をテーマに地域全体で子どもを育てる環境を整備する。
〇就学に要する負担を軽減する取組みを行う。

≪基本目標④≫

“健康長寿のまち”に　⇒　生涯現役で安心して暮らせる環境を創る

数値目標：健康寿命〇〇歳

【基本的方向】

〇市民の健康づくり、高齢者の介護予防、見守りや支え合いの仕組をつくる。
〇農を主とする国家戦略特区に相応しい、地産地消の健康な食事の推進に取り組む。
〇高齢者が意欲をもって働ける新しい生きがいしごと環境づくりを推進する。
〇地域医療体制の充実とともに、それと連携した地域包括ケアシステムを充実させる。
〇市民すべてが安心して心豊かに暮らせる環境を整備する。
〇社会基盤の安全・安心を高める。

≪基本目標⑤≫

“繋がりと発信するまち”に　⇒　市民総動員で受け手に伝わる戦略的な情報発信できる環境を創る

数値目標：養父市公式 HP アクセス数〇〇件

【基本的方向】

〇市民一人ひとりが広告マンになれるように「暮らし」「ひと」「自然」などの養父市の魅力をわかりやすく一元的に取りまとめる。

〇受け手の立場に立った情報発信、「やぶぐらし」が見えるストーリー性の高い情報発信（生まれてから死ぬまでの養父市での生活）や観光宣伝との繋がりを重視した情報発信など戦略的な情報発信に努める。

〇ターゲットに応じた多様な情報発信チャンネルを使用し、老若男女問わず情報が行きわたるよう努める。